

## 第9回教育委員会定例会議 会議録

1 日 時 平成29年9月20日（水）

開会 13時30分

閉会 14時24分

2 会 場 金沢市庁舎 2階 201会議室

3 出席委員（6名）

教 育 長	野 口 弘
教 育 委 員	田 邊 俊 治
〃	早 川 芳 子
〃	岡 能 久
〃	河 野 俊 寛
〃	大 島 淳 光

4 欠席委員（1名）

教 育 委 員 丸 山 章 子

事務局	教育次長（兼）学校教育部長	山 田 啓 之
	担当部長（兼）教育総務課長	加 藤 弘 行
	教育総務課担当課長（兼）課長補佐	中 西 賢 治
	担当部長（兼）学校職員課長	川 口 勝
	学校職員課担当課長・管理主事（兼）課長補佐	吉 田 圭 史
	担当部長（兼）学校指導課長	新 村 裕 二
	学校指導課担当課長（兼）課長補佐	村 田 昌 人
	市立工業高校事務局長	堂 岸 豊
	生涯学習部長	鳥 倉 俊 雄
	生涯学習課長	藤 木 由 里
	（兼）家庭教育振興室長	
	図書館総務課長	村 田 英 彦
	（兼）玉川図書館長	
	（兼）近世史料館長	
	（兼）城北分館長	
	玉川こども図書館副館長	池 田 光 穂
	教育プラザ総括施設長	高 村 政 博
	（兼）地域教育センター所長	
	研修相談センター所長	熊 谷 有 紀 子

5 案 件

報告第21号 中央地区教育施設再整備検討懇話会の設置について （教育総務課）

報告第22号 金沢市教育実践セミナーの開催について （教育総務課）

報告第23号 平成29年度全国学力・学習状況調査及び県基礎学力調査の結果概要について （学校指導課）

非 報告第24号 平成29年度金沢市教員採用候補者選考試験（金沢市立工業高等学校教

そ の 他

- (1) 平成29年度 金沢市立小・中学校卒業式日程について
- (2) 金沢市立工業高等学校の活動状況について(平成29年4月～平成29年9月)
- (3) 夏季休業中の教職員研修について
- (4) 次回の定例会議の日程について

6 議事の経過等 以下のとおり

野口教育長の開議あいさつに続いて、傍聴希望者4名について協議し、傍聴を許可した。次に、議事録署名委員として早川委員を指名した。本日の議題について野口教育長が報告第24号を非公開とするよう発議し、全会一致で非公開とすることを決定した。

審議に入り、報告第21号、報告第22号、報告第23号、その他(1)(2)(3)について説明・質疑応答が行われ、原案どおり承認した。また、10月の定例会議の開催日を次のとおり決定した。最後に報告第24号について非公開で審議に入り、原案どおり承認し、閉会した。

＊ 10月の定例会議の日程：平成29年10月25日(水) 13：30～

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 報告第21号 中央地区教育施設再整備検討懇話会の設置について(教育総務課)

(説明の概要) 議案書2ページ。中央地区での中学校の新設等に向け、学識者や地域関係者等からなる中央地区教育施設再整備検討懇話会を設置する。中央地区での中学校の新設については、小将町中学校の生徒数、学級数が減少していることや、中央小学校児童が卒業後、複数の中学校に分かれて進学している状況の解消を図るもので、これまで庁内で検討を行ってきた。

現時点では玉川こども図書館の敷地に中央小学校を移設し、現在の中央小学校を中学校校舎として活用することが最善であると考えている。今回、新たに懇話会を設け、中央地区の教育施設の再整備に向け、旧JTの建物を活用してきた玉川こども図書館での小学校建設と併せた改築を含め、当該地区の市有地や市有施設の有効活用について、さまざまな立場の方々からご意見を頂きたいと考えている。併せて、地域や保護者の方々との協議も進めていきたいと考えている。

懇話会の委員は、図書館関係を含む学識経験者4名、当該地区の町会連合会会長など地域関係者4名、中央小学校、小将町中学校の校長、保護者代表4名の計12名に委嘱し、10月2日に第1回の懇話会を開催することとしている。

田邊委員	現在の小学校を中学校にする構想ですが、教室数はきちんと入る見込みなのですか。
加藤教育総務課長	今年度の小将町中学校の児童数は220名余りですが、これからこの案が皆さま方のご了解の上で具体化されていけば、最終的には現在の中央小学校に通っている児童が全て新しい中学校に通うこととなります。さらに、明成小学校、馬場小学校に通っている児童も全て、同様に新しい中学校に通うこととなります。その場合、平成32年度見込みで、新しい中学校は全体で450名余り、13学級となり、必要となる教室数を確保できる見通しです。

○ 報告第22号 金沢市教育実践セミナーの開催について(教育総務課)

（説明の概要）議案書 4 ページ。本市は平成 27 年に、学校教育を通したひとづくり、生涯学習を通したひと・まちづくりを目指し、金沢市教育行政大綱を策定した。今回、学校や各地域等においてさまざまな教育活動等に携わる方々を対象とし、本市が進める教育施策への理解を深めるとともに、今後の本市教育の振興について考える契機とするため、専門家や職員による全 3 回のセミナーを開催する。

全体テーマは「学校教育を通したひとづくり、生涯学習を通したひと・まちづくり」である。第 1 回は 9 月 26 日（火）14 時から、金沢 21 世紀美術館シアター 21 で開催する。テーマは「未来を担う人材の育成」「教育・学習環境整備の推進」である。内容は記載のとおりである。なお、パティシエの辻口博啓さんに、「夢から現実へ」という演題で講演していただく予定である。今後の予定としては、第 2 回は 11 月ごろに「特別支援教育の充実」をテーマに、第 3 回は来年 1 月ごろに「家庭・地域の教育力の向上」「生涯学習を通じた学びの支援」をテーマに開催する予定である。

早川委員	セミナーの対象者として「学校や地域等で教育活動等に携わる人」とありますが、具体的にはどのような人を指すのですか。
加藤教育総務課長	地域での教育活動にはさまざまありまして、例えば PTA の方々も家庭教育の面では大きな意味で教育に携わっている方々であり、教育の原点、子どもの育成の原点にある方だと思っています。そういった方々の下支えで学校教育が成り立っているという点では、幅広く分野を問わず地域で教育に携わっておられる方々にぜひお越しいただきたいと考えています。
早川委員	そういう人々にあまねく広報をするには、いろいろな団体があつて大変だと思いますが、情報がうまく伝わるのでしょうか。
加藤教育総務課長	公民館、市 PTA 協議会等を通じて、各種、各方面にご案内しています。
大島委員	地域を絡めてということで、PTA においても非常に興味深い内容になってくると思いますが、第 1 回の現状の申し込み状況が分かれば教えてください。
加藤教育総務課長	現在、約 90 名の応募を頂いています。

#### ○ 報告第 23 号 平成 29 年度全国学力・学習状況調査及び県基礎学力調査の結果概要について（学校指導課）

（説明の概要）議案書 6 ページ。全国学力・学習状況調査は、小学校第 6 学年と中学校第 3 学年を対象に、昨年度と同様、全数調査として行われた。調査内容は国語、算数・数学の各教科で、主として「知識」に関する問題 A と、主として「活用」に関する問題 B をそれぞれ実施した。また、児童生徒、学校が回答する「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」も行われた。

2 の各教科の平均正答率は、本市の実施分と県及び国の実施分について記載している。国と比較してみると、小学校、中学校の全ての実施教科において全国を上回っている。小学校では 4～6 ポイント程度、中学校では 5 ポイント程度上回る結果となっている。一方、県と比較してみると、全教科において同程度であったと捉えている。

議案書 7～11 ページに質問紙調査の結果を載せた。児童生徒に対する質問紙調査は、小学校が 92 問、中学校が 94 問で、学校に対する質問紙調査は小学校が 111 問、中学校が 109 問あった。その結果を抜粋したものが示したものである。数値は質問に対する肯定的な回答の割合で、平成 28 年度に抜粋したものに加え、今年度新設された質問や金沢型学校教育モデルに関する質問を一部抽出したものを示している。全国と比較して差が 2 ポイント以上あり、良い傾向が見られるものには「○」印を付けている。やや課題と見られるものには「▲」印を記している。

議案書 7 ページで示したように、「学習に対する関心・意欲・態度に関すること」や「学習状況に関すること」については、全国と比較して肯定的な回答が高い傾向が見られる。特に⑤、⑥の質問を見ると、肯定的な回答の割合が非常に高く、全国を上回っており、⑦～⑪の質問も合わせると、金沢型学習スタイルを意識した授業に取り組んできた成果として捉えることができている。しかし、8 ページの⑫、⑬のように、子どもたちが難しいと感じている割合が高く、改善が必要な点もある。こういった点については、言語活動を重視し、個に応じた指導をしていくことが大切であると捉えている。

8 ページの下半分は、「基本的生活習慣に関すること」についてである。小学校は全国と同等程度、中学校は全国と比べて良い状況が見られることが分かる。

9 ページの⑭、⑮の設問については、昨年度も示したが、これまでも全国より低めの結果だった。ただ、小中ともに昨年度よりは改善しているところも見えているのではないかと考えている。「将来の夢や目標を持っている」「自分には、よいところがあると思う」は、とても大切なことだと思っているので、道徳の授業でも今後意識して指導していくことが大切だと捉えている。

⑯、⑰は新しい質問である。「外国への興味・関心に関すること」については、全国を上回る結果が多く見えると思う。金沢市において、長年にわたり英語教育に力を入れて取り組んできた成果の一つと考えられる。

9 ページの下の方から、学校質問紙調査の結果を示している。①～⑫の質問も金沢型学習スタイルに関する質問だが、全てにおいて全国を上回っていることが分かる。10 ページの一番下、「小学校教育と中学校教育の連携に関すること」についても、全ての質問において全国を大幅に上回っている。これも本市の教育施策の成果として捉えている。今後も金沢型学校教育モデルに基づく教育活動がより効果的に行われるよう、学校訪問等を通して指導していきたいと思っている。

12 ページは県の基礎学力調査の結果で、小学校第 4 学年、小学校第 6 学年、中学校第 3 学年の全児童生徒を対象に行われたものである。各教科の平均正答率を県と比較すると、小学校はやや下回り、中学校は同程度であったと捉えている。既に各学校に結果を詳細に知らせ、実情に即した改善策を立てるよう指導している。

13 ページは、その二つの学力調査において特別な配慮を行った児童生徒の状況について示している。児童生徒の個々の状況に応じて適切な対応がなされたのではないかと捉えている。

本市としては、今年度の学力調査等の結果を受け止め、金沢型学習スタイルのより深い理解に基づく授業実践がなされるよう、指導・助言を行っていききたいと思っている。

河野委員

まず、特別な配慮を行った状況の表（13 ページ）を具体的に付けていただいたことに感謝します。上から 5 番目の小学校第 6 学年の対応状況に「書字読字障害」と書いてあって、配慮を行った理由が書いてありますが、具体的に何をしたのでしょいか。具体的な対応状況も書いていただきたいと思います。

新村学校指導課長

学校から報告があったものを書き記したもので、例えば上から八つ目に「ディスレクシアのため」とあります。これも同じ学習障害のことで、この場合は拡大文字などを示していますので、そのような形での対応だったのではないかと思います。

河野委員

具体的にそこを修正していただければありがたいと思います。それから、「書字読字障害」という言い方はあまりなくて、「読み書き障害」という言い方が通常だと思います。それから、「ディスレクシア」よりも「読み書き障害」の方が伝わるといいますので、書くとする「読み書き障害（ディスレクシア）」という記載の方がふさわしいと思います。

新村学校指導課長

学校が書いてきたものをそのまま書いていますが、今後は「読み書き障

	害」とするように、学校にもお伝えしていきたいと思います。
野口教育長	せっかくのいいご助言なので、来年改善できるのであれば、詳細を調査いただいて、表記下されればいいと思います。
河野委員	もう1点、要望です。「拡大文字」というのがありますが、何倍拡大されたかというのも貴重な情報なので、分かる範囲で記載をお願いしたいと思います。
新村学校指導課長	分かりました。
野口教育長	では次回、よろしくお願いします。
早川委員	今の質問に関連しおたずねします。配慮ができていたことは素晴らしいと思いました。上から三つ目の「遅刻のため」は、急に何か不都合が起こる状況になったのだと思います。他はご本人か、保護者か、担任の先生から希望があって、事前に理由が分かっていて、場所も状況も用意しているのだと理解していいですか。
新村学校指導課長	おっしゃるとおりです。要項にもそのように示されているので、事前に対応しています。
野口教育長	学習状況調査の中にも今年度から新たに入った項目が結構ありますし、答える子どもたちも質問数が多くて大変だったと思いますが、かなりいい結果だと思います。一方、8ページの⑫、⑬の書く力をこれからつけていかなければならないと改めて思いました。
早川委員	今は世界の新興国が学力をすごく伸ばしています。世界的に見れば日本も安心してられない状況です。その中で特に、教育長からご意見があった「書く」ことについてこれからどういう対策で伸ばしていくのか、○をたくさんもらえた分野についてはどうやってさらに伸ばしていくのか、結果を必ずフィードバックして次の良い結果につなげていかなければなりません。そのあたりの体制は出来上がっているのでしょうか。
新村学校指導課長	各学校では、5月の段階で自己採点し、弱点が分かっています。他と比較してというよりも、例えば50ポイントであれば、半分できていないということなので、その点については既に対応しており、各学校で「学力向上の取り組み」をつくり、授業ではこういうこと、授業以外ではこういうことができるのではないかという取り組みを考えています。その進捗状況についても、校長会等で確認しています。
田邊委員	最初に、県や全国と比べた金沢市の数値が示されています。どういうたぐいの問題が得意か不得意かという傾向は従来からつかんでいたと思いますが、従来と比べてその傾向に変化が見られたのか、以前からの長所・弱点を引きずっているのかが分かれば教えてください。
新村学校指導課長	学力調査が始まった当初は、記述問題が非常に苦手でした。条件を付けて何字以内で書きなさい、理由を書きなさいというB問題に当たる部分が、全国と同じく金沢市も弱かったのですが、この部分についてはかなり良くなってきていると捉えています。反面、知識・理解の部分で、漢字や理科の基礎問題が少し抜けている面が見えているので、そういったところも油断せずに取り組んでいきたいと思っています。

田邊委員

傾向は年々追跡できるので、改善された点もあると思いますが、課題として引きずっている面もあると思うので、全市的な傾向が少しでも改善する方向に行けばいいと思います。

それから、全数調査なので全国的には国立・公立は全て参加していますが、私立は半分ぐらいであり、全数と言いながらも、本当に全部かと言われると確然として言えない面があります。大規模調査なので、一定の傾向は分かるとはいえ、特に質問紙調査は100を超える項目なので、子どもたちが十分に吟味しながら答えているのだろうかと考えてしまいますが、結果を見ると全国的な傾向と本市の傾向に共通する部分があったりもします。

新たに導入された「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたい」という設問は3割ぐらいで、全国的にも弱いですが、全国に比べると本市がやや上回っています。全国と比べて良い、悪いという着眼点もあると思いますが、全国的に課題なものもあって、そこはやや良くてもしっかり取り組まなければならない面もあると思います。

注目するところは多々ありますが、先ほどおっしゃった⑫、⑬の「書く」ことについては、中学校は全国と比べて随分改善していて、小学校は課題があります。これが経年的に移っていくので、3年後を見越して取り組んでみてどうかというのを追跡的に見る必要があると思います。

それから、金沢市の特徴かと思うのですが、㉗の地域の行事に参加している割合は、全国と比べて小学校は高く、中学校は全国並みになっています。小学校から中学校、金沢市と全国など、複眼的な分析に活用できると思うので、ぜひ多様な視点で分析してほしいと思います。各学校あるいは本市全体で見ている素材として格好なデータだと思います。

新村学校指導課長

おっしゃるとおりだと思います。一つ一つを丁寧に分析することで、より力をつけていけるのではないかと思います。「書く」ことについても、感想文と説明文の二つが出ていますが、金沢型学習スタイルではノート指導をしていて、ノートにきちんとまとめる力についてはついていますが、長文に少し苦手意識があることが分かっているので、そういったことにスポットを当てた活動もしていきたいと思います。また参考にしたいと思います。

## ○ その他（1） 平成 29 年度 金沢市立小・中学校卒業式日程について

（説明の概要）議案書 16 ページ。今年度の金沢市立小・中学校卒業式の日が決定した。卒業式の日程の設定に当たっては、中学校は公立高校の入試後、授業日を2日間確保することを基本として定めた。また、小学校は中学校卒業式の後、学校数が多いので2日間に分けて、その2日間連続で実施することを基本として定めている。この考え方にに基づき、今年度は中学校の公立高校の入試日を3月6、7日に設定したことから、入試日より2日間の授業日を確保し、3月10日（土）に卒業式を設定した。これに伴い、小学校の卒業式は3月15日（木）、16日（金）の午前と午後に設定した。

（特になし）

## ○ その他（2） 金沢市立工業高等学校の活動状況について（平成 29 年 4 月～平成 29 年 9 月）

（説明の概要）議案書 17 ページ。本校では本年度も引き続き、金沢型工業教育モデルの実践を行い、将来のものづくりを担う人材育成をより推進するために、各種の事業に取り組んでいる。高校生ものづくりコンテストは、全国工業高等学校長協会主催で、生徒の技術向上を図ることなどを目的に毎年夏休みに開催している。17 回目となる今回は、県大会で昨年も優勝した測量部門、木材加工部門に加え、電子回路組立部門を含む3部門で優勝し、北信越大会に出場した。北信越大会での成績はご覧のとおりで、上位の成績を収めることができた。

資格取得については今月 1 日現在、延べ 374 名が資格を取得している。この資格は難易度にばらつきがあるので単純な比較はできないが、おおむね昨年並みの成績だと思っている。記載にはないが、これから難関資格である技能検定 2 級の資格試験が始まる。今年は 12 名の生徒が受験あるいは受験予定で、この中から多数の合格者が出ることを期待している。

本校の特徴の一つである活発な部活動については、今回は各大会で資料のと通りの成績を上げることができた。特に水球部は、報道等でご承知のとおり、インターハイで 25 年ぶりに優勝した昨年に引き続き、2 連覇を達成することができた。続く国体では準優勝となり、2 年連続 2 冠はなかったが、決勝戦の模様を本校体育館において生徒全員で実況中継を見ながら応援した。水球部の活躍は、生徒の誇りと愛校心を高めるとともに、感動と勇気を与えてくれたと思っている。その他の成績は、ご覧のとおりである。

その他の活動では、7 月 19 日に恒例の専光寺海岸での清掃ボランティア活動を行い、217 名の生徒が参加した。完全に自主参加だが、一昨年は 118 名、昨年は 179 名と参加人数が飛躍的に増えており、生徒の社会貢献やボランティアへの意識が確実に高まっていると感じている。

それから、本校を進路として選んでもらうため、中学校 3 年生を対象とした体験入学を今年度は 8 月 17、18 日の両日に開催した。51 校から、昨年 8 月に開催したときの 474 名を上回る 551 名の生徒が参加した。こうした催しを通じ、中学生に本校の良さをアピールし、中学校卒業者が大幅に減る中、生徒の確実な確保につなげていきたいと考えている。

国際交流関係については、既に本委員会でも報告しているとおり、10 月 7～11 日、中国・大連市に金沢市海外教育派遣研修として教員 2 名を派遣し、教育友好交流校である大連市技師学院などを視察する予定である。

10 月以降の主な活動としては、10 月 14 日に中学 3 年生を対象として部活動の体験入部を実施するほか、記載のと通りの活動を予定している。

早川委員	大学の体験入学では、学生たちが体験する人たちを案内して自分の経験を話したり、学校のアピールをします。金沢市立工業高等学校でも在校生が案内役として、さまざまな説明をするのでしょうか。
堂岸市工高校事務局長	機械科など五つの学科に分かれ、それぞれの生徒が製作体験を行います。その場に在校生が補助として入り、いろいろ教えたりしながら交流していると聞いています。
野口教育長	次期学習指導要領の中でプログラミング教育が大きく取り上げられていますが、学校側からプログラミング教育を発信するような授業などは行うのでしょうか。
堂岸市工高校事務局長	今回の報告に漏れていて申し訳ありませんが、プログラミング教育については小学校 4～6 年生を対象とした教室を、募集人員 10 名で 8 月中に開催し、参加した児童からは大変好評でした。
野口教育長	参加人数は。
堂岸市工高校事務局長	10 名です。

### ○ その他 (3) 夏季休業中の教職員研修について

(説明の概要) 議案書 18 ページ。夏季休業中に 72 講座を開催し、3,884 人の教職員の参加があった。研修の主な内容は、(1) 授業力の向上を目的として、新学習指導要領の要点であるアクティブ・ラーニングの視点から授業改善を理解する研修を行った。(2) 今日的重要課題等への対

応として、人権や学校組織づくり等に関する研修を行った。(3) 特別支援教育では、特別な教育的支援を必要とする児童生徒への理解に努め、指導方法を習得するため特別教育支援コーディネーター等の実践力の向上を図った。(4) 宿泊研修では、今年度採用した初任者、または採用されて10年以上経過している各学校の中核として活躍している職員を対象に、それぞれ求められる知識と能力取得を図った。

今年度の研修の特色は、「2 講座数や受講者数の削減」にあるように、集合型研修については教職員の業務負担を勘案し、必要不可欠なテーマを精選して開催した。昨年度に比べて講座数は13減り、72講座、受講対象は788人(約17%)減り、3,884人となった。

一方、こちらから要望のある学校に出向き、校内研修や授業づくりなどについて個別に教職員を支援する個別支援型研修をサポートする指導者の増員、学級経営をフォローアップする講座の新設などの充実を行うことで、教職員の資質向上を図っている。加えて、研修の開催時期についても、8月11～16日、また8月24日から夏季休業終了までを除外し、研修の実施時期を集約することで教職員の効率的な業務を図った。

田邊委員	昨年から13講座削減されたということですが、研修内容の四つのカテゴリーのうち、どの領域が削除されたのでしょうか。
熊谷研修相談センター所長	削減された部分は特別支援教育等です。集合型研修について、例えば通級指導教室等を年6回行っていたのを半分にして、その代わりに個別に学校訪問しながら各学校において先生個々のニーズに答えています。
田邊委員	若い先生が増えていて、1年目は法定研修で手厚く初任者研修をされますが、2年目、3年目は学校の中で指導する形に変わっていきます。先ほど特別支援は個別支援型と言われましたが、初任者研修に関してもそういうアプローチの仕方があった方がいいという気がします。2年目、3年目の若手の先生方に対して、研修面ではどのような対応をしているのでしょうか。
熊谷研修相談センター所長	確かに初任者研修については、指導教員も拠点校の先生がついて1年間手厚く行っていますが、2年目になるとその先生方が常にそばにつけていない状況もあります。ただ、研修としては、初任者研修から5年目までをスタート5と設定し、2年目も3年目も4年目も5年目も連続して学んでいくということで、5年で育てるという視点で行っています。
田邊委員	スタート5のサポートはどのようなになっているのでしょうか。
熊谷研修相談センター所長	<p>基本的には集合研修です。初任者について今年度少し改善したのは、小学校では国語、算数の授業が多いので、今まで夏季研修で行っていたものを、1学期中に学級づくりや国語、算数の研修を行い、初任者がすぐに学級で生かせるような形にしています。また、小学校には英語科があるので、4年目の先生には英語科の研修を入れたりして、5年で育てる形になっています。</p> <p>それから、講師を含めて5年目までの先生に対しては、自主参加の形で土曜日に匠塾というものを開いています。現場の匠の先生に来ていただいて、午前中に算数や国語、体育などの授業について学んでおり、非常にニーズが高いです。現場の先生に学ぶことへの関心が非常に高く、すぐ使えるものだということから、今年度は特別支援教育やICT教育についても開催を広げています。</p>
早川委員	ICTはこれから積極的に活用していただきたいと思います。いろいろな機器が学校にそろっていてもICT活用を上手に利用できていない現状があります。非常にもったいないので、ぜひ充実させてください。「書く」「読



む」授業だけでなく、体育、美術、英語などいろいろな教科に活用できる  
とします。ICT活用授業の充実をお願いします。

教職員研修には入らないと思いますが、心と体のケアも取り入れていた  
だければと思います。フレッシュな先生は一生懸命になり過ぎる傾向があ  
ります。自分が早くいい先生になりたいと思ひ過ぎてしまいますね。もう  
少し気持ちを豊かに持つ方法など、何らかの形で心や体のケアを取り入れ  
ていただけると、先生たちの息抜きにもなると思ひます。

熊谷研修相談セン  
ター所長

先生方とはとにかくスキルアップしていききたいと思ひているので、自分の  
気持ちやストレスを感じるというか、コントロールすることについては、  
ご指摘の通り重要な視点であると思ひますので検討していききたいと思ひま  
す。

以 上

## 会 議 録 署 名

教 育 長 \_\_\_\_\_ 署 名

教 育 委 員 \_\_\_\_\_ 署 名

(早川委員)

[非公開議案の審議結果について]

○ 報告第 24 号 平成 29 年度金沢市教員採用候補者選考試験（金沢市立工業高等学校教員）の結果について（学校職員課）

審議結果についても非公開

以 上